

第1学年2組 体育科学習指導案

【日時】令和5年7月25日(火) 8:45～9:30 【場所】小プール 【指導者】宮司 健太郎

本授業の主張点

水の中を移動したり、もぐったり、浮いたりする遊びを通して、水の中で活動することの面白さに触れながら、自分が選んだ遊びにこだわりをもち、夢中になって楽しむ児童の姿をお見せします。

1 単元名 水遊び ～みずと ともだち～ (D 水遊び)

2 単元の構想

(1) 単元について

本単元は、水につかって移動したり、水にもぐったり浮いたりすることが面白い運動遊びである。

水を使う遊びや水の中での遊びは、幼児教育や日常生活の中でも経験がある。低学年では、水遊びの面白さに触れ、その行い方を知るとともに、水慣れを通して不安感を取り除き、水の心地よさを味わうことからはじめ、水の中を移動したり、もぐったり、浮いたりするなどの基本的な動きを身に付けるようにし、中学年以降の水泳運動の学習につなげていくことが求められる。特に第1学年では、発達の段階を踏まえて、顔を水につけたり、もぐったりできるようになることを目標とする。

また、水遊びを楽しく行うために、遊び方を工夫するとともに、順番やきまりを守り、誰とでも仲よく遊んだり、水遊びの心得を守って安全に気を付けたりできるようにすることも大切である。

(2) 児童について

これまでの体育の学習で、「たいいく」の約束(楽しく・一生懸命・一緒に仲良く・工夫して)に沿って運動遊びを面白くすることや活動の約束を守ることについて学んでいる。また、運動遊びとの出会いの場で面白さを共有し、探究テーマを児童とともに設定した。自分でめあてを立てたことはないが、活動したい場所を選んだり、口頭で振り返りをしたりしたことはある。【学び方の状況】

約束を守って活動しようという児童が多い。一生懸命になりすぎるあまり約束を破ってしまう児童もいるが、自分の行動を素直に振り返り、次に生かそうとする姿が見られる。友達とぶつかった際には、自分から謝るなど、自分たちで解決できる児童もいる。友達と一緒に活動することを好意的に捉えている児童が多い。【学び方の状況】

水遊びは、全ての児童が幼児教育や日常生活の中で経験がある。【運動の経験と理解】

事前のアンケートより、本学級の児童は、83% (29名/35名) が「水遊びが好き」と答えている。「楽しい (10名)」「泳ぐことができる (9名)」「気持ちいい (8名)」「潜ることができる (5名)」など、これまでの成功体験や楽しい経験から好意的に捉えている。【楽しさ体験】

嫌いと答えた児童は17% (6名) いる。その理由として、「冷たい・寒い (6名)」「シャワーが怖い (2名)」「鼻に水が入る (1名)」などを挙げており、体の感覚や恐怖心が関係していることが分かる。

【阻害要因】

肩まで水につかることができる児童が100% (35名)、顔を水につけることができる児童が83% (29名)、水の中にもぐるることができる児童が63% (22名) いる。これらはそれぞれ、お風呂でのつかる・顔を付ける・もぐるの回答とほぼ差はなかった。【技能の習得状況】

今回の学習で行いたい活動として、「泳ぐ (12名)」「宝探し (8名)」「もぐる (6名)」「玉入れ (5名)」「水鉄砲 (4名)」などと答えており、水の中で様々な活動を楽しみたいと考えている。「嫌い」と答えた児童 (6名) も、「宝探し」「泳ぐ」「もぐる」「つかる」「水鉄砲」「玉入れ」など、自分の行いたい活動を記入することはできている。【児童の願い】

(3) 指導について

水の中での活動や、顔を水につけることに対して抵抗を感じている児童がいるので、単元の導入を大きく見据え、様々な水遊びに触れながら探究テーマを児童とつくっていく。試しの活動を行った後、「何が楽しかった」と問いかけ、整理しながら、運動遊びの面白さを共有する。それに紐付いた探究テーマを決めることで、課題解決に向かうための方向性を共有する。【運動遊びとの出会わせ方】

- ・ 単元後半は、自分の今もっている力や志向性に合わせてできる水遊びを選んだり、遊びの中でもう少しでできそうなことに挑戦したりしていく時間とする。もぐったり浮いたりして楽しむ場と、水の中を移動して楽しむ場の大きく2つに分け、志向性に基づいて活動できる場を設定する。【場の設定】
- ・ ビート板やペットボトル、フラフープ、ホース、カード、ボールプール用のボールなど、児童が操作しやすいものを活用することで、児童自身で活動を工夫しやすくできるようにする。【教具】
- ・ プールサイドは歩くこと、跳び込まないこと、合図ですぐに上がることを徹底することで、安全に活動できるようにする。【安全面への配慮】
- ・ シャワーを浴びる際に、歌を歌うように指導したり、技能のレベルに応じて、シャワーの強さを変えたりすることで、水に親しむことができるようにする。【知識・技能の習得】
- ・ 自然に水が顔にかかる遊びを段階的に設定し、頑張りやできたことを称賛することで、不安感や恐怖心のある児童も楽しみながら水に慣れ、達成感を味わうことができるようにする。【水遊びが苦手な児童への配慮】
- ・ 一生懸命活動したり、一緒に仲良く活動したり、工夫して活動したりしている姿を称賛し、板書にまとめていくことで、児童が運動を「する」ことの楽しさを感じながら、学び方の定着を図ることができるようにする。【思考力・判断力・表現力等の育成】
- ・ 水につかって移動したり、水にもぐったり浮いたりするなど、できたことを「運動の視点」(表1)を用いながら称賛することで、児童が運動の視点に触れるようにする。この運動の視点は、体育科の見方である運動の面白さに触れるための手立てとなる。【思考力・判断力・表現力等の育成】

表1 「水遊び」の運動の視点

時間性	空間性	力動性	共愉性
数 時間	向き 姿勢 深さ	力の強さ 動きの大きさ	連動

- ・ ポートフォリオシートに活動の達成状況に応じて児童自身でシールを貼りながらその日の活動を振り返り、次時に行いたい活動を記すように促すことで、次時への見通しをもち、めあてをもった活動ができるようにする。【主体的に取り組む態度の育成】

(4) 深い学びについて

本単元は、水泳運動系の「水遊び」領域に位置する。この領域で働かせる体育の見方・考え方は、「水遊びの面白さに触れながら、自己の適性等に応じた『する・みる』といった運動遊びとの関わりができること」である。見方は、「運動遊びの面白さ」、考え方は「自分にとっての水遊びを面白くすること」に関わり、水遊びの運動の視点に触れることになる。小学校での内容と体育の見方・考え方の具体は表2の通りである。

表2 水泳運動系「水泳運動」領域の内容及び体育の見方・考え方

学年	内容	見方	考え方
低学年	<ul style="list-style-type: none"> ・ 水の中を移動する運動遊び ・ もぐる・浮く運動遊び 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 運動の価値や特性 ・ 運動の視点 ・ 運動の局面 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 水遊びを楽しむために、簡単な遊び方や場を選んでいる。【選択する】 ・ 友達のよい動きを見付けたり、考えたりしたことを友達に伝える。【比較する】
中学年	<ul style="list-style-type: none"> ・ 浮いて進む運動 ・ もぐる・浮く運動 		<ul style="list-style-type: none"> ・ 自己の能力に適した課題を見付け、その課題の解決の方法を工夫したり、活動を選んだりする。【見通す】【選択する】 ・ 課題の解決のために考えたことを友達に伝える。【筋道を立てる】
高学年	<ul style="list-style-type: none"> ・ クロール ・ 平泳ぎ ・ 安全確保につながる運動 ・ 背泳ぎ(学校の実態に応じて、加えて指導することができる) 		<ul style="list-style-type: none"> ・ 自己の能力に適した課題を見付け、その課題の解決の仕方を考えたり、課題に応じた活動の場や段階を選んだりする。【推論する】【関連付ける】【選択する】 ・ 課題の解決のために自己や仲間の考えたことを他者に伝える。【要約する】

前頁表2に示す体育の見方・考え方を働かせながら学ぶ本単元における児童の姿を全体要項の「深い学び」に関わる児童の姿を関連させると表3のようになる。

表3 「深い学び」に関わる児童の姿

	「深い学び」に関わる児童の姿	本単元における児童の姿
①	学習活動に見通しをもち、計画を立てたり調整したりしながら、粘り強く取り組み続けている。学習課題に対して関心をもち、主体的に課題解決を図ろうとしている。	水遊びの面白さに触れながら、自分の行いたい活動を決め、進んで活動している。
②	「見方・考え方」を働かせながら思考・判断・表現し、自分の考えを再構築している。	運動遊びを面白くするために、一生懸命活動したり、一緒に仲良く活動したり、工夫して活動したりしている。
③	知識が概念化し、知識の質が高まっている。	気付きを結び付けながら、水遊びを楽しんでいる。
④	学びの成果を次の学習や生き方に生かす目的意識や達成感を得ている。	一生懸命活動したり、一緒に仲良く活動したり、工夫して活動したりしたことを振り返り、次時や次学年への展望をもっている。
⑤	他教科等の学びの経験を結び付け、意欲を高めたり、解決の道筋を広げたりしている。	考えたことを友達に伝えている。

3 単元の目標と評価規準

(1) 単元の目標

水遊びの面白さに触れながら、自分のやりたい遊びを工夫して楽しむことができるようにする。

(2) 評価規準

ア 水遊びの面白さに触れ、水遊びの行い方を理解するとともに、水に慣れ、水の中を移動したり、もぐったり、浮いたりしている。 【知・技】

イ 一生懸命活動したり、一緒に仲良く活動したり、工夫して活動したりして運動遊びを面白くしている。 【思・判・表】

ウ 進んで水遊びに取り組むとともに、水遊びの心得を守って安全に気を付け、順番や決まりを守り、誰とでも仲良く活動しようとしている。 【主】

4 単元の指導計画（全8時間 本時8／8時間目）

次	時	主な学習活動（○）	指導上の留意点（・）	評価規準（◆）【観点】				
【探究テーマ】みずとともだちになるために どうする？								
	1	2	3	4	5	6	7	8（本時）
		【水遊びとの出会い】 ・様々な水遊びの体験 ・探究テーマの設定		ねらい 水遊びの面白さに触れながら、自分のやりたい遊びで楽しむ。				まとめ
一	1	○単元や学習の見通しをもつ。	・学習の約束や進め方を説明し、全員が安全に楽しめるようにする。	◆水遊びの面白さに触れ、水遊びの行い方を理解している。 【知・技】				
	2	○様々な水遊びを行い、面白さを共有する。	・何が楽しかったを問い、児童の言葉を整理しながら水遊びの面白さを共有する。	◆水遊びの心得を守って安全に気を付けて活動しようとしている。 【主】				
二	3	○面白さに紐付いた探究テーマを決定する。	・児童が感じた面白さに紐付けて、探究テーマを決定する。	探究テーマ みずとともだちになるために どうする？				
	4							
二	5	○「みずともだち」になるための方法を考える。	・水の中で進んで活動をしたくなるように、様々な遊びを想定し、遊びに合った道具を準備する。	◆水の中を移動したり、もぐったり、浮いたりしている。 【知・技】				
	6	○一生懸命活動したり、一緒に仲良く活動したり、工夫して活動したりしながら、水遊びを楽しむ。	・一生懸命活動したり、一緒に仲良く活動したり、工夫して活動したりしている姿を称賛し、学び方の定着を図る。	◆一生懸命活動したり、一緒に仲良く活動したり、工夫して活動したりして水遊びを面白くして遊んでいる。 【思・判・表】				
	7		・水の中で息を吐いていることや力を抜いて浮いていることを運動の視点を使いながら称賛することで、運動の視点に触れることができるようにする。	◆進んで水遊びに取り組むとともに、順番や決まりを守って誰とでも仲良く活動しようとしている。 【主】				
	8 本時		・水の中で「脱力」したり「安心感」を感じたりできたかを問い、探究テーマに迫ることができた児童を称賛する。					

5 本時の指導（8／8）

(1) 指導目標

水遊びの面白さに触れながら、自分のやりたい遊びを工夫して楽しむことができるようにする。

(2) 評価規準

イ 一生懸命活動したり、一緒に仲良く活動したり、工夫して活動したりして水遊びを面白くしている。

【思・判・表】

(3) 「見方・考え方」を働かせる手立て

- ・ 児童が運動の視点に触れることができるように、児童の動きを運動の視点を使って称賛する。
- ・ 運動を「する」ことの楽しさを感じることができるように、児童の考えた工夫を価値付け共有する。

(4) 展開（波線部は「見方・考え方を働かせる手立て」に関わる働きかけ）

学習活動と児童の反応（波線部）	教師の働きかけと形成的評価（◆）
<p>1 ストレッチと水慣れの活動を行う。（13分）</p> <p>(1) ストレッチを行い、シャワーを浴びる。</p> <p>・シャワーを待つ時間に各自でストレッチを行ったり、シャワーを頑張っている友達を励ますために、一緒に歌ったりする。</p> <p>(2) 水慣れの活動を行う。</p> <p>・水の温度は、これくらいか。きもちいいな。</p> <p>・水の中を移動するのは楽しいな。</p> <p>・今日は大きい水しぶきが立てれたぞ。</p> <p>・水に流されるのも楽しいな。</p> <p>2 前時の振り返りを基に、本時のめあてを確認する。（5分）</p> <p>3 活動する。【深い学びの姿②】（19分）</p> <p>(1) 自分が選んだ遊びを行う。</p> <p>水の中を移動【移】、もぐる【も】、浮く【浮】</p> <p>・もぐってお宝を拾いたいな。【移・も】</p> <p>・ペットボトルとのぶくぶく競争で、大きなペットボトルに勝ちたいな。【も・浮】</p> <p>・友達とぶくぶく競争をして、乾杯したいな。【も】</p> <p>・プールスティックで浮かんで、友達に引いてもらいたいな。【移・浮】</p> <p>・顔を水に付けて自分のカードを見つけることができたぞ！【移・も】</p> <p>・小さなペットボトルでも浮けたよ。【も・浮】</p> <p>・ビート板に寝転ぶと、気持ちいいな。【浮】</p> <p>・友達とどっちが速く行けるか競走したよ。【移】</p> <p>・ビート板を使って泳げたよ。【移・浮】</p> <p>・少しだけ泳げたよ。【移・も・浮】</p> <p>(2) シャワーを浴びる。</p> <p>・シャワーを待つ時間は、整理運動を行ったり、自分で活動を振り返ったりする。</p>	<p>1-(1) シャワーを浴びる際に、歌を歌うように指導したり、技能のレベルに応じて、シャワーの強さを変えたりすることで、水に親しむことができるようにする。</p> <p>1-(2) 水慣れの時間を十分に確保し、少しでもできるようになったことを称賛することで、水遊びの面白さに触れることができるようにする。</p> <p>1-(3) 見学の児童には、頑張っている友達を褒め、励ます言葉かけをする役割を与えることで、学び方の視点を基に活動できるようにする。</p> <p>2 一生懸命活動したり、一緒に仲良く活動したり、工夫して活動したりして楽しんでいた姿を紹介し、称賛することで、児童へ活動の方法を示す。</p> <p>3-(1) 一生懸命活動したり、一緒に仲良く活動したり、工夫して活動したりしながら活動している姿を称賛することで、学び方の定着を図る。</p> <p>3-(2) <u>水の中で息を吐いていることや力を抜いて浮いていること、水遊びを楽しんでいることなどを運動の視点を使いながら称賛することで、運動の視点に触れることができるようにする。</u></p> <p>◆ 一生懸命活動したり、一緒に仲良く活動したり、工夫して活動したりしながら水遊びを面白くしている。（観察・発言）【思・判・表】</p> <p>B 一生懸命活動するか、一緒に活動するか、工夫して活動するかして水遊びを面白くしながら、楽しんで遊んでいる。</p> <p>C→ 掲示物で活動を紹介したり、友達の遊びを見ながら、一緒に活動したりするように言葉をかける。</p>
<p>4 振り返りを行う。【深い学びの姿④】（8分）</p> <p>・最初は水が怖かったけれど、5回もプールで顔がつけれるようになって嬉しかった。</p> <p>・ぶくぶく競争で、大きなペットボトルにも勝てるようになって嬉しかった。</p> <p>・力を抜くと、水に浮けるようになったよ。</p> <p>・友達と一緒にカードを探しながらもぐるのが楽しかった。</p> <p>・プールに感謝を伝える。</p>	<p>3-(5) 単元を通しての伸びを称賛することで、児童が自信をもち、本単元を終えるようにする。</p> <p>4-(1) <u>児童の発言から運動遊びを面白くしたことを価値付けることで、児童が運動を「する」ことの楽しさを振り返ることができるようにする。</u></p> <p>4-(2) <u>探究テーマに迫ることができた児童を称賛することで、水中での活動では「脱力」と「安心感」の大切さを感じることができるようにする。</u></p> <p>4-(3) 本単元で学習したことが来年の水遊びや他の体育の学習でも生かせることを話すことで、体育の学習への意欲が高まるようにする。</p>

